



群衆の建築 オープンスペースを複合する人々の活動のための都市建築

東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻 村部 里 (Murabe,Rui)

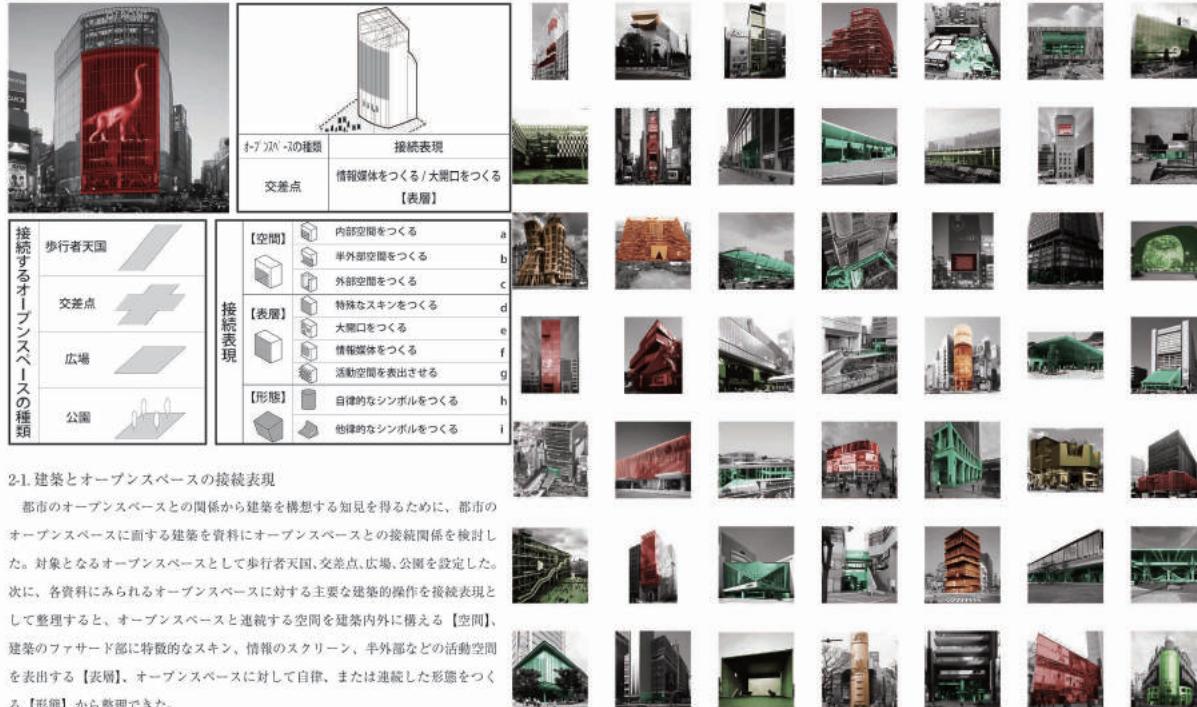
1.序論



都市において、道路や駅前広場は一時的に祝祭的な活動の場となることがある。近年、そういった交通のための空間を積極的に人々の活動に利用される公共空間として整備しようとする動きがみられる。一方で、建築は路地空間の引き込みや公園空地などによって、敷地外の都市のオープンスペースと多様な関係をつくってきたが、建築とオープンスペースの管理主体が異なり、その関係は制限されてきた。今後、建築とオープンスペースの関係をつくる管理主体同士の連携によって建築とオープンスペースの複合はより多様な活動

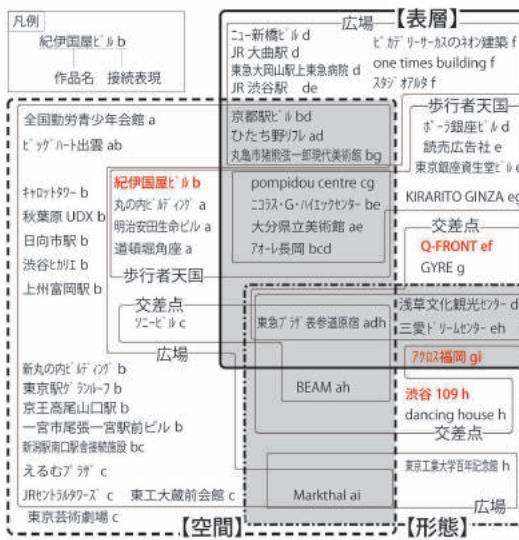
を許容し、人々が集う都市における重要な公共空間となると考えられる。そこで、本研究では都市における建築とオープンスペースとの接続関係を事例から整理し、今後再整備が計画されている新宿駅東口を対象に、人々の多様な活動を許容する駅前広場の枠組みと共に、オープンスペースを複合する人々の活動のための都市建築を提示する。

2. 建築と都市のオープンスペースの接続関係



2.1. 建築とオープンスペースの接続表現

都市のオープンスペースとの関係から建築を構想する見知を得るために、都市のオープンスペースに面する建築を資料にオープンスペースとの接続関係を検討した。対象となるオープンスペースとして歩行者天国、交差点、広場、公園を設定した。次に、各資料にみられるオープンスペースに対する主要な建築的操作を接続表現として整理すると、オープンスペースと連続する空間を建築内外に構える【空間】、建築のファサード部に特徴的なスキン、情報のスクリーン、半外部などの活動空間を表出する【表層】、オープンスペースに対して自律、または連続した形態をつくる【形態】から整理できた。



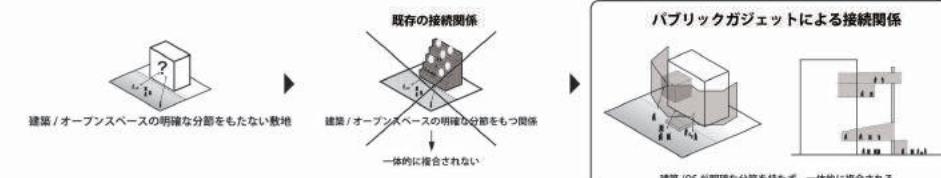
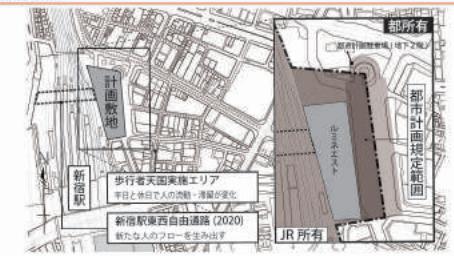
2.2. 建築とオープンスペースの接続関係

前節で整理した接続表現とオープンスペースの種類との関係を資料ごとにまとめ、図7に示した。各接続表現ごとにみると【空間】では広場に対して半外部を表出することでオープンスペースと連続的な場をつくりだそうとするものが、【表層】ではどのオープンスペースに対しても情報媒体や活動空間が現れることで性格づけるものが、【形態】では交差点や広場に対して自律的な形態によってオープンスペースを象徴化するものがそれぞれみられた。ここで、オープンスペースの環境を広範に規定する形態をもつ、活動空間を表出させるアクロス福岡のように、接続表現を複数も多面的にオープンスペースとの接続を試みる事例もみられたが、明確な境界の分節により建築とオープンスペースの空間的な接続は限定されており、建築とオープンスペースが一体化されている事例はみられなかった。

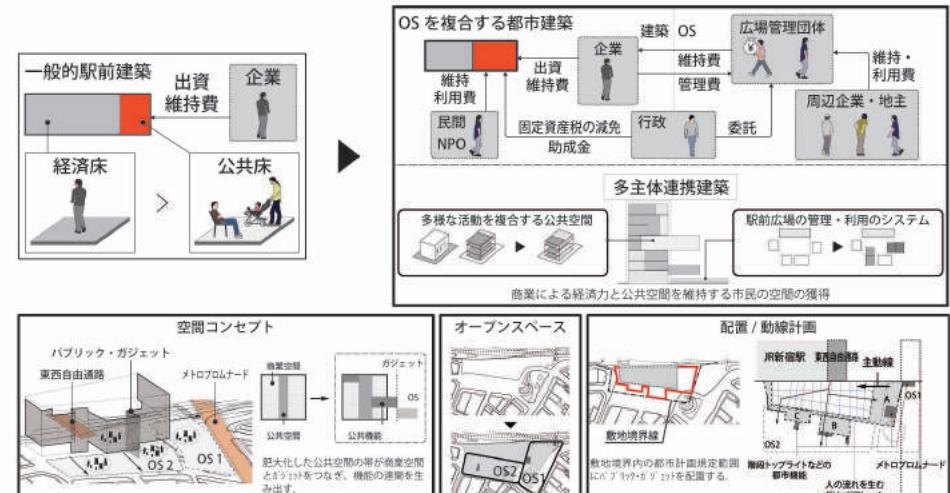
3. 群衆の建築



敷地 新宿駅東口

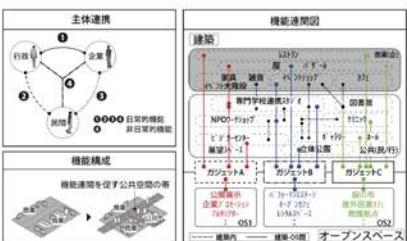
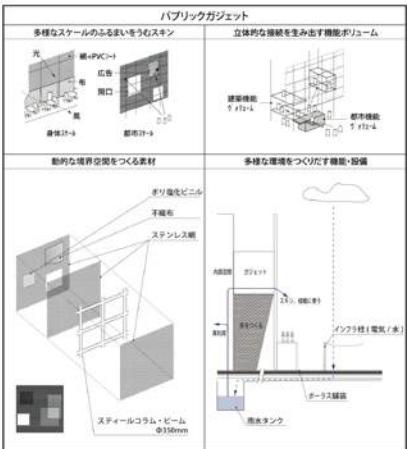
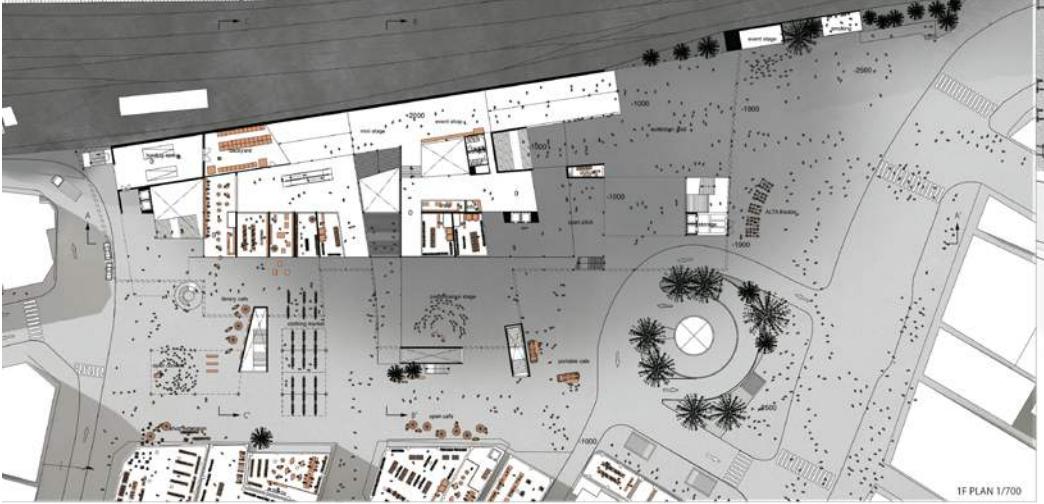


前章でみた事例とは異なり、建築とオープンスペースに二分されない不明瞭な領域が都市には存在する。例えば、本計画敷地である新宿駅東口周辺では、JR 所有の土地に対して都市計画法の規定により公衆道路としての利用が求められ、オープンスペースとして利用されている。このような管理主体が不明瞭な場所では、建築とオープンスペース双方の主体が連携することで建築とオープンスペースはより高度に関係しあると考えられる。そこで、建築とオープンスペースとを横断しながら機能や空間の連鎖によって接続関係をつくるパブリックガジェット(以下、ガジェット)を提示する。



3.2. 計画

新宿駅では、南北周辺の開発に続き、東西自由通路(2020竣工予定)によって人の流れの変化が予想され、東口周辺を歩行者に開かれた街として、歩行者天国や駅前広場を中心に整備することが計画されている。しかし、現状の新宿駅前に面する建築は、経済原理が先行し公共空間の割合は乏しい。そこで、企業、民間、行政などの多主体の連携によって多様な活動を許容する空間としてオープンスペースを活用し、駅前広場に面する建築の公共空間を増やす都市建築の枠組みとともに、オープンスペースを複合する建築を提案する。本提案では、既存の交通のための駅前広場をタクシープールの遮隔化、撤入の時間指定制などによって、駐車場入り口を残して、2つの歩行者広場(OS1, OS2)を計画している。歌舞伎町方面など3方面から地下通路への主要なアクセスをつくり、それぞれにガジェットを配している。



ガジェットは多様な素材で人のふるまいを誘発するスキンと建築の機能
ヴォリュームや地下階段などの都市機能ヴォリュームによって、建築-OS間の立体制的な視線的・動線の接続をつくっている。建築内部では商業空間に専門学校と連携したスタジオや企業のワークショップ、公共施設などの公共空間が貢献し、ガジェットと接続することで機能の連携を促した。

